



市の中心地、松戸駅の周辺。江戸川の河川敷もあり、自然豊かな環境となっている。

人口（令和2年国勢調査）：49万 8232人  
面積（参考）：61.38 平方キロメートル

# 02 松戸市

## 地域特性と課題

松戸市は、千葉県の北西部に位置し、都心から約20km、電車で約30分と都心へのアクセスがしやすい場所にある。

鉄道網は、JR常磐線、JR武蔵野線、新京成線、東武野田線、北総線、流鉄流山線の6路線、鉄道駅は23駅、そのうち乗換駅は5駅ある。2015年3月には、JR常磐線の一部列車で東京・品川方面への直通運転を行う「上野東京ライン」が実現し、松戸駅から東京駅まで最短24分でアクセス可能。

能となり、都心への通勤がさらに便利になった。松戸市の発展のきっかけとなったのは、高度経済成長期における、旧日本住宅公団（現在の都市再生機構）による「常盤平団地」の建設である。国内の大規模団地建設の先駆けとして、1960年4月に入居開始し、これを引きつらに、市内での大規模団地建設が続き、市内の人口は、毎年1万人規模で増加した。

現在の人口は、一般市では最大規模となる50

万人弱で、人口は微増傾向だが、合計特殊出生率は、全国平均よりも低く少子高齢化が進んでいる。そのため、地域の若い世代が結婚と子育てに価値と希望を持つことができず、必要がある。

また、人口急増期に整備された都市基盤は、道路等の社会インフラは約50年が経過し、公共施設も7割超が整備後30年以上経過している。耐震化やバリアフリー化等の

新や再生を進める必要がある。

地域課題の解決に向けて、市総合計画では将来都市像を「多世代がともにいきいきと思いい暮らし」を描き、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」「多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、市民、地域、行政等が分野の垣根を越えて繋がる重層的な地域共生社会の展開、産学官民等の多様な主体の連携等に取り

※ 合計特殊出生率：人口統計上の指標で、一人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子供の数の平均を示す。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。



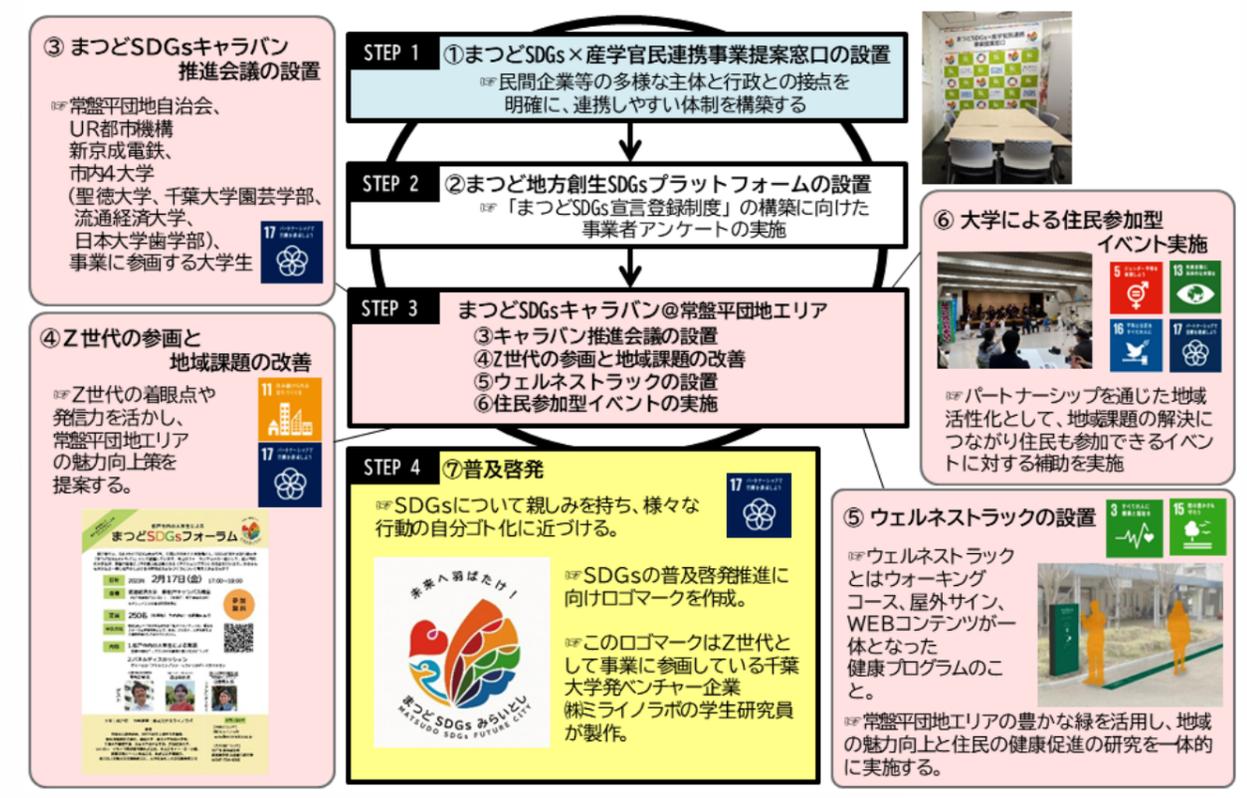
1 「まつどSDGs 産学官民連携事業提案窓口」の様子。  
2 健康プログラム「TOKIWALK」

## SDGs 推進に向けた取り組み

Z世代を起爆剤に多様な主体が奏でる  
常盤平団地エリアのリ・ブランディング

少子高齢化が進み課題が複合化している常盤平団地エリアで、SDGsネイティブ、デジタルネイティブなZ世代がまちづくりに主体的にかかわる仕組みを構築し、エリアのリ・ブランディングを進める。

■ 松戸市における自治体SDGsモデル事業の取り組み(令和4年度)



3 ⑥のイベントとして実施された「松戸クリエイティブリユースプロジェクト」の様子。  
4 ④の活動の中で実施された「まつどSDGsフォーラム」の様子。



# interview



総合政策部 政策推進課  
市政総合研究室 主査  
東海林 理江さん

総合政策部 政策推進課  
市政総合研究室 室長  
中平 治さん

## 松戸市の未来都市に向けての取り組み

### 松戸市が抱える課題

松戸市の発展の礎を築いた常盤平団地は、入居開始から60年以上が経過し、老朽化や住民層の高齢化が課題となっており、高度経済成長期に建設された大規模団地の多くは同様の課題を有しており、持続可能なコミュニティの形成や周辺エリアを含めた地域活性化に向けて、若い世代との交流を推進していくなどが求められています。

また、市内には4つの大学（聖徳大学・聖徳大学短期大学部、千葉大学園芸学部、日本大学松戸歯学部、流通経済大学）があり、市外出身者も多く在籍していますが、学生全体の市内への就職率は5%程度と低い状況です。都心へのアクセス性の高さから、働く場所を都内に求める傾向があり、市内4大学があるという利点を、市内での若い世代の活躍につなげられていないという状況です。

### 課題解決のための取り組み概要

目標は、多様な主体の連携や若い世代のアイデアを取り入れながら、持続可能な社会の実現に向けた仕組みをつくることです。そのため、松戸市では次の3つの取り組みを行っています。

#### 《まつど産学官民連携窓口》の開設

事業提案窓口を1月16日に開設し、民間事業者等からの提案を受けています。提案が事業につながった例としては、市内特産物である梨の生産過程で大量に出る剪定枝を活用してプラスチック減のボールペンを製作する取り組みがありました。

#### 《まつど地方創生SDGsプラットフォーム》の構築

松戸市内でSDGs達成に向け取り組んでいる事業者等を登録する「松戸市SDGs宣言登録制度（仮称）」を構築し、その情報を発信・共有す

ることで、幅広い市内事業者の意識啓発と取り組みへの参画を促すとともに、地域課題の解決に向けた民間同士の連携を推進していきます。

#### 《Z世代を起爆剤とした常盤平団地のリ・ブランディングの推進》

市内のSDGsに関する様々な取り組みは、関係事業者や市民の方と一緒に進めていきたいという思いから、「まつどSDGsキャラバン」と称して行っています。昨年10月には、住民、関係事業者、市内大学及び在学生が事業の方向性を共有する場となる「まつどSDGsキャラバン推進会議」を設置しました。（左の写真参照）

#### ■ まつどSDGsキャラバン推進会議の様子



けた取り組みの裾野を広げたいと考えています。

#### 他の地域への展開

常盤平団地の事例を、高齢化が進んだ大規模団地を抱える他の地域に展開していきたいと考えています。常盤平団地は、過去にも、団地自治会の取り組みが社会課題の解決の先行事例として「NYタイムズ」などの海外メディアで取り上げられたこともあったようで、注目度が高いエリアです。そのため、Z世代のアイデアや行動力を地域の活性化につなげていくことができれば、成功事例になると考えています。

### 取り組んでみて苦労したこと

調整全般は市が担っているため、住民、事業者など、それぞれの立場を尊重して事業を進めていくために、多くの時間を要しました。

また事業に関わる大学生が主体的に事業に関わ

事業推進の主体となる市内在学の大学生からは、常盤平団地エリアの調査研究、「まつどSDGsフォーラム」での発表を経て、エリアの魅力向上に向けた「アクションプラン」を提案いただきました。大学生には、SDGs普及啓発に向けたロゴの作成やSNSでの発信なども担ってもらいました。

そのほか、千葉大学予防医学センターと都市再生機構と連携し、同エリアを歩いて巡る健康プログラム「TOKIWAALK」を設けたり、市内大学が同エリア内で実施するSDGsの達成につながるイベント等に支援を行ったりするなどの取り組みも行っています。

体制構築にも尽力しました。大学生が知りたいと思ったことを調査できるように、市が後方支援を担うことで、やりがいをもって事業に参画してもらおうとしました。「松戸市の取り組みは面白いから関わってみたい」との声が大学生から自然とあがり、関わる大学生が増えていくことが理想だと考えています。

#### 今後の展開

常盤平団地の魅力向上に向けて、大学生が提案したアクションプラン実現を進めていきます。

またSDGsの推進に向けては、SDGsの達成に取り組む事業者等を応援する「松戸市SDGs宣言登録制度（仮称）」を開始予定です。松戸市内の事業者を対象にしたアンケートでは、SDGsに取り組んでいる事業者は約3割に対し、この制度に参加意欲のある事業者は約6割いることがわかりました。これらの事業者

の参加を得て、松戸市全体でSDGsの達成に向

#### ■ 常盤平団地



2 常盤平団地エリアにあるけやき通りの様子。常盤平団地は1960年に最初の入居が始まり、本市の発展の礎を築いた。それから60年以上の時を経て、団地建設時に植栽されたケヤキやサクラなどの樹木は大きく生長し、常盤平けやき通りは「新日本街路樹百景」に、東西に抜ける常盤平さくら通りは「日本の道100選」に選ばれている。

1 松戸市のほぼ中央に位置する21世紀の森と広場。東京ドーム約11個分の50ヘクタールの広さを有し、豊かな自然を活かしたつくりとなっている。